

荒野 1 / 7

高木登

第五稿

12/05/20

登場人物

荻野真司

進士康輔

大西理佐

山崎和紀

宗田孝弘

御厨永遠子

野島みずき

たとえば渋谷にあるカフェ。
ビルの三階にあるような店である。

そこには貸し会議室のような個室エリアがあり、その一室。

上手側、大通りに面した窓からは絶え間なく車の通行音や街のざわめきが聞こえてくる。

中央に大きな雲形のテーブル。

下手側、少し離れた場所に小型のテーブルも置かれている。

その周りには不均等に並べられた椅子。

夏。ある日曜日の午後。

会場の照明が落ちる。

イヤフォンから漏れる音楽の音が聞こえてくる。

（俳優は楽屋から再生機器のスイッチを入れ、ゆつくりと入場してくること）

やがてイヤフォンをした男が入場してくる気配。

男、しばらく椅子とテーブルを眺めている。どこに座ろうか迷っている様子。

やがて任意の椅子に腰を下ろす。

照明が点く。

テーブルに着いている宗田孝弘。

耳に入れたイヤフォンからは音楽が漏れ聞こえているが、熱心に聴いているわけでもなく、表情は乏しい。

ややあつて、進士康輔が入ってくる。

進士
(会釈)

宗田
(会釈)

特に言葉を交わすこともなく、進士は任意の場所に腰を下ろす。

会話もなく座っている進士と宗田。

やがて、

進士
どう思う？

宗田
(聞こえていない)

進士
(宗田の前で手をかざしてみせる)

宗田
(驚いてイヤフォンを外し) ……。

進士
どう思う？

宗田
え。

進士
なんで来た？

宗田
え……。

進士 なに。

宗田 いや、なんかいきなりだなんて。

進士 孝弘だろ。

宗田 ……ええ。

進士 いきなりもなにもないだろ。

宗田 はあ、

進士 停めろよ。

宗田 え？

進士 音楽。

宗田 ……ああ。

停める宗田。

進士 なんで来た？

宗田 え、

進士 どうして来た？

宗田 いや…：呼ばれたから。

進士 それだけ？

宗田 はい。

進士 呼ばれてくるか、ふつう？

宗田 でも…：

進士 でも、なに？

宗田 やっぱ、それなりに気になるっていうか、

進士 ……そっか…：気になんのか…：

宗田 ……。

進士 俺さ、反対したんだよ、兄貴に。いまさらやめた方がいいつてさ。

宗田 はい、

進士 みんなそれぞれ家族も事情もあるんだからさ、そつとしとい

た方がいいんだよ。だって、いまさらだろ、なあ？

宗田 ……。

進士 なんだよ。

宗田 いや、べつに、

進士 べつについてことないだろ。

宗田 まあ、それなりに興味はあるっていうか。

進士 きょうだいに？

宗田 ……はい。

進士 ……へえ。

そこへ大西里佐が入ってくる。

大西 ……お兄ちゃんは？

進士 まだ。

大西 ……そう。(と任意の場所に座る)

進士 (宗田を示し) わかる？

大西 孝弘でしょ。

進士 わかるんだ。

大西 わかるよ、

進士 (宗田に) おまえ、わかるか？

宗田 なんとなく、

進士 なんとなくってなんだよ、

宗田 お姉さんがいるのは知ってたんですけど、あんまり記憶には
ないっていうか、

大西 おぼえてない？

宗田 はい、

進士 いくつだったっけ？

宗田 四つですね。

進士 四つだったからおぼえてないか？

宗田 おぼえてないですね、

大西 おぼえてないんじゃない？

進士 そんなもんかなあ、俺、おぼえてるけどな、四歳の頃、

大西 ふつうおぼえてないって、

進士 そうか？ ベッドの上で小便した記憶があんだよな、

大西 個人差あるでしょ。

宗田 おぼえてないですね、

進士 どこまでおぼえてんの？

宗田 妹いたのはおぼえてんですけど、

進士 え、そっち？

宗田 はい、

進士 そっちはおぼえてんのか、

宗田 なんとなく、

進士 おぼえてる？

大西 (当然のように) わたしはおぼえてるよ、

進士 俺、十歳だったからさ、

大西 わたしは九つ。

進士 物心ついてたからな、

宗田 ぼくは微妙っすね。

進士 でも妹はおぼえてんだろ？

宗田 はい、

大西 どっち？

宗田 え？

大西 両方おぼえてる？

宗田 両方？

大西 え、わかってない？

宗田 ちよつとわかんないです。

大西 妹ふたりいるんだよ。

宗田 え、そうなんですか？

大西 そうだよ、

進士 え、じゃあ、わかってないで来たの？

宗田 はい、

大西 きょうだい七人だつてのは知ってるよね？

宗田 ええ、それは、はい、

進士 構成知らなかった？

宗田 なんとなくはわかってましたけど、

進士 俺が次男だつてわかつてる？

宗田 さあ……

進士 そっからか……

大西 上にひとりお兄さんがいて、(進士を示し)次男、わたし、三男がいて、あなた、下にふたり。

宗田 ああ……なんか上に五人くらいいるのかと思つてました。

大西 上に四人、下に二人。

宗田 へえ、

進士 迷惑だろうなあ。

大西 え？

進士 妹。迷惑だろ？

大西 なんで？

進士 いや、だつてさ、

大西 迷惑つてことはないと思うけど、

進士 俺さ、ここだけの話、正直迷惑なんだわ、

大西 なんで。

進士 なんでつて、おまえはどうなの？

大西 え？

進士　なんかこう気が重くなったりしないの？　うんざりしたりしないの？

大西　しないよ、

進士　嘘つけ、

大西　きょうだいに会うのに気が重いつておかしいでしょ。

進士　（宗田に）ひとり？

宗田　はい？

進士　独身？

宗田　ああ、はい、そうですね。

進士　俺、バツイチなだけどき、めんどくせえんだよ、向こうの親戚とつきあったりするの。嫁さんきょうだい三人いて気い遣うしぎ、（宗田に）彼女、いる？

宗田　いまはいないです、

進士　結婚とか考えてんの？

宗田　特には、

進士　けっこう苦労すると思うよ。気にしない人もいるかもしれないけどぎ、気にする人もけっこういるからぎ、こういうの。

宗田　……はい。

進士　失敗した人間として言わせてもらおうとき、不幸な人間が幸せな人間とくつついちゃいけないんだよ。不幸な人間は不幸な人間とつきあわなきゃダメなんだよ。そうしないとバランスがとれないんだよ。

大西　そんなことないって、

進士　あんだよ、おまえだって結婚長けりやわかってんだろ、それくらい。

そこへ山崎和紀が入ってくる。

小柄である。

山崎 (笑顔で) ひさしぶり! おぼえてる?

大西 おぼえてる、おぼえてる、忘れるわけじゃない、

進士 おまえ相変わらず小さいな、

山崎 やめてよ、そういうの。兄さんは?

大西 まだ、

山崎 (宗田に) おぼえてる?

宗田 (首を傾げる)

山崎 え? おぼえてるよね?

宗田 いや、

山崎 え?

宗田 おぼえてないですね。

山崎 え?

宗田 おぼえてないですねえ、

大西 あんまりおぼえてないんだって、

山崎 え、だって、孝弘でしょ?

進士 孝弘だけど、おぼえてないんだと。

山崎 え、そうなの?

宗田 はい、

山崎 カズノリだよ、お兄ちゃんだよ?

宗田 そこらへんちよつと記憶があいまいで。

山崎 え、そうなの?

進士 俺らの記憶もあいまいなんだと。

山崎 そつか……そうかもしれないな。ちっちゃかったもんね。

進士 (宗田に) おぼえてないか? おまえよりちっちゃいお兄ち

やん。

山崎 やめてよ、そういうこと言うの、

宗田 おぼえてないですねえ、

進士 でも四つだぜ。

山崎 まあでも、考えてみればぼくもあんまりおぼえてないし。

進士 孝弘のこと？

山崎 どんな性格だったとか、そういうことまではおぼえてないよね、

進士 泣いてたよな、

宗田 ああ……いや、おぼえてないですけど、

進士 よく泣いてたよ。それはおぼえてんだよ、

宗田 そうですか、

山崎 でも子供だったらふつう泣くでしょ。

進士 赤ん坊ならともかくさ、

山崎 泣かない？

大西 泣くと思うけど。

進士 しよつちゅうは泣かないだろ、

大西 毎日じゃないかもしれないけど、泣くでしょ。

進士 しよつちゅう泣いてたんだよ、こいつ。それは鮮明におぼえてんだよなあ。

大西 泣かしたんじゃないの？

進士 おれ？ そんなことするかよ。

山崎 ……自分はおぼえてないの？

宗田 はい、

山崎 逆におぼえてるのはどっから？

宗田 小学校くらいからですかね。

進士 でもそれが幸せかもしれないねえよな。

宗田 そうですか、

進士 向こうの親御さん、大事にしてくれたんだろ？

宗田 まあ、ふつうですね。

進士 おまえも運が良かったよ。記憶なんてなくて正解だよ。

そこへ、ひとりの若い女が入ってくる。

野島みずきである。

探るような様子で一同を見ているが、

大西 あの……ひよつとして……

野島 堀切の……

大西 そうそう！ え、どっち？

野島 はい？

大西 上？ 下？

進士 （大西に、苦笑して）おまえ、名前で聞けよ。（野島に）永遠子？ それとも……

野島 みずきです、

大西 あ、一番下だ！

山崎 うわ、大きくなっちゃって……

野島 （苦笑して）はあ、

山崎 おぼえてる？

野島 おぼえてないです、

山崎 （笑顔で）……そう。

進士 すわったら？

野島 （バッグから携帯を出して）あ、わたしちよつといいですか、

山崎 あ、どうぞ、どうぞ。

野島 すいません、

と野島、携帯を操作しながら退場する。

山崎 美人になったね。

大西 いくつになるんだ？ 二十五？ 六？

進士 それくらいだよな。

山崎 いいもん着てんな。

大西 お父さん、丸紅だから。

山崎 へええ、

進士 ラッキーだよな、いいうちにもらわれて。

大西 でもお兄ちゃんどこだって公務員でしょ？

進士 安定してるだけで、べつに金持ちじゃねえからなあ、

大西 (山崎に) 叔母さん、元気？

山崎 こないだ入院したけど元気だよ。

進士 元気じゃねえじゃん。

山崎 血圧高いだけだから。

大西 医者代、たいへんでしょ、

山崎 払えないよ。生活保護。

進士 おまえ、仕事は？

山崎 いま、無職。

進士 え？

大西 お店、どうしたの？

山崎 ぼくがいると売り上げ下がるからって、クビになっちゃった。

進士 不当解雇じゃねえか。

山崎 書類を自主退職に偽造すれば問題ないんだって。

大西 あんたに言ったの？

進士 おまえ、それ裁判したら勝てるぞ。

山崎 そんな金ないよ。

大西 生活保護って裁判費用は出してくれないの？

山崎 さあ……

進士 それはねえだろ。

大西 でも基本的人権にかかわることだし、

進士 刑事事件ならともかく、民事は無理っぽくねえか？

大西 よくわかんないけど。

進士 申請通るの、たいへんらしいじゃん。

山崎 うちが医者から話が行ったから、そんなにたいへんじゃなかつたけど。

進士 いつまでもらえんだ。

山崎 次の就職決まるまでじゃない？ でもラーメン屋向かないからちようどよかつたよ。

大西 落ち着かないね。

山崎 (自嘲的に) 一生こうだよ。もう無理でしょ、日本。

進士 日本のせいにすんなよ。

山崎 うんざりすんだよ、同僚が中国人ばかりだとき、あいつら自分たちだけで固まるし、話通じないしき、

大西 近所のアパートでも揉めてたな、中国人。

山崎 あんな連中いなければもつとうまくいくのにさ。

野島がもどつてくる。

皆とは離れた場所にすわる。

山崎 こっち来たたら？

野島 はい？

山崎 遠慮しないで、こっち。

野島 あ、わたし、べつにそういうのいいんで。

携帯でメールをはじめめる。

大西 恥ずかしがらないでいいのよ？ きょうだいなんだから、変

に氣い遣わなくても……

野島 だから、そういうの、べつにいいですから。

顔も向けずに携帯を見ている。

山崎 そういうのって、なに？

野島 え？

山崎 そういうのって、なんなのかな？

野島 ……なんなんですか？

山崎 こういうかたちできょうだいがあつまってるんだから、同席

するのは当然なんじゃないかな？

野島 きょうだいっつっつてもべつにきょうだいじゃないし。

山崎 え？

野島 あんまり関わりあいになりたくないっていうか、

山崎 え？

進士 (山崎に) やめろよ。

山崎 え？

進士 放つところ。しょうがねえだろ。

山崎 (見て) ……。

携帯を操作している野島。

そこへ荻野真司が入ってくる。

表情はどこか暗い。

荻野 よう。

一同、それぞれに会釈などしつつ、

山崎 ひさしぶり。

荻野 おお、

進士 痩せた？

荻野 そうか？ 測ってないからわかんねえけど。

腰を下ろす。

野島の様子をじっと見て、

荻野 こっち来ないか。

野島 え？

荻野 来ないか。話あるから。

野島 ここでも聞こえますけど。

荻野 来いよ。そこじゃ遠いよ。

野島 済んだらすぐに帰るんで。

荻野 そんなこと言うなよ。いまから帰るなんて言うなよ。

野島 (うんざりとして) ……。

荻野 聞いてほしいんだ。俺の話を、ちゃんと聞いてほしいんだ。
だからわざわざ集まってもらったんだ。来てくれ。こっちへ。

野島 ……。

荻野 一時間、二時間くらい、俺たちに割く時間もないのか？

野島 ……。

荻野 みずき。

しぶしぶのように席を移動する野島。

進士 （野島を意識して）知ってるの？

荻野 え？

進士 例のこと。

荻野 まだ話してない。

大西 みんな知ってるんじゃないの。

山崎 知らないはずだけど。

大西 そうじゃなくて……こういうのって、どういうわけがバレんのよ。噂になんのよ。

荻野 まだ話してない。

山崎 話しといたら？

荻野 永遠子が来たら。

宗田 ……なんの話ですか？

進士 両親の話。聞いてるか？

宗田 漠然とは。

進士 そちらのご両親から？

宗田 はい、

進士 どう聞いたか知らないけど、たぶん事実とちがうから。

荻野 よせ。

進士 なんにも言っただけよ。

荻野 とにかくやめとけ。そろってからにしとけ。

大西 ……遅れてるの？

荻野 たぶん。

野島 わたし、四時に出なくちゃいけないんですけど。

進士 先に始めたら？

大西 永遠ちゃんにはあとから説明すればいいんじゃない？

山崎 なんて言っただけなの？

荻野 話があるって。

山崎 それだけ？

野島 きょうだいそろってないとダメだからって……ちよつと強引じゃないかと思っただけど。

荻野 大事だろ。

野島 正直、ちよつとおかしいんじゃないかと思つて、

荻野 説得するのに熱くなるのは当然だろ？

大西 いきなり現れて「来い」って言われたら、そりゃ驚くでしょ。

荻野 いきなりじゃないよ。段階は踏んでるよ。

野島 でも会つて二回目じゃないですか、

大西 びっくりするわよねえ、

野島 ふつうじゃない感じがして、

進士 ごめんね、ふつうじゃないきょうだいだからさ、

荻野 よせつて、

野島 気持ち悪いし、

荻野 え？

野島 いきなり七人きょうだいがいるって言われても気持ち悪いでしょ？

進士 その通りだよなあ、わかるよ。

野島 親ともケンカになつたし、

大西 (荻野に) 向こうの親御さんには話通したの？

荻野 いちおう、

大西 いちおうってなによ、

荻野 待つてくれって言われたんだ。でも待てないって言つた。

進士 え、なに、無断？

大西 勝手に会つたの？ まずくない、それ？

野島 父も母も怒つちやつて、

大西 そりゃ怒るよ。当然だよ。

野島 わたしも怒って、
進士 二十年以上騙されてたようなもんだからなあ、
野島 きょうだって、ふたりとも行くことないって、
荻野 でも来ただろ、
野島 来たけど、
荻野 来たいから来たんだろ？
野島 ……だって気になるし、
荻野 強引だったかもしれないけど、いつかは知らなくちゃいけないことだったんだ。

野島、こわばった顔にやや弱気が見えて、

野島 ……うまくいってたんですよ。ふつうに。親とも仲いいし、
生活に不満もないし、

荻野 知ってるよ、

野島 できれば失くしたくないんですよ、

荻野 そんなことにはならないよ、

野島 だから、もうしわけないんですけど、今後はいつきいおつき
あいしたくないんですよね。

荻野 おまえがそう思うんなら、それでもかまわないよ、

野島 わたしは野島の人間なんで。血はつながってなくても。

荻野 でもつながってるんだ。きょうだいなんだ。

野島 ……。

荻野 (宗田に) おまえもか？

宗田 え？

荻野 おまえも早く聞きたいか？

宗田 いや、ぼくはどっちでも、

大西 始めない？ 始めちゃおうよ、先に。

荻野 そうだな……どっから話そうかな……

山崎 なんて聞いてた？ 親のこと。

野島 わたしを産んですぐに母親が亡くなったから、養子に出され
たつて。

山崎 孝弘も？

宗田 あんまりくわしいことは聞いてなくて、

山崎 なんにも？

宗田 そうですね、はい、

山崎 最初っから話した方がいいんじゃないの？

一同の顔を見渡すと、語り始める荻野。

荻野 ……親父は家具職人だった。二十歳そこそこでおふくろと結
婚して、一年めで俺が生まれた。末っ子のみずきとは十歳離れ
てるから……

進士 (さえぎり) そういう話はいんじゃない？ わかりきつ
たことだからさ。結論だけ言っちゃえよ。

荻野 結論でなんだよ。

進士 (宗田と野島に) おふくろ病気で死んだんじゃねえんだよ。
殺されたんだよ、親父に。

宗田・野島 ……。

進士 親父ひどい酒乱でさ、喧嘩絶えなかつたんだよ。それである
日、おふくろ殴って殺しちゃったんだよ。以上。

間。

野島 ……ほんとなんですか？

進士 ほんと、ほんと。

野島 うちの親も知ってるんですかね。

進士 当然知ってるよ。

野島 え、これ、有名な話？

進士 有名じゃねえよ。

荻野 大事件じゃないから有名じゃないよ。

大西 新聞には載ったけど。ちっちゃく。

山崎 テレビはやってないよね。

荻野 TBSがやった。

山崎 ほんと？

荻野 おぼえてる。他の局はやってない。

野島 え、じゃあ、どういうことですか、なんか責任とかあるんで

すか、わたしにも、

荻野 ないよ、そういうのは、

大西 それでみんなバラバラに養子に出されたの。名字も変えて、

名前も変えて。

荻野 おまえたち三人はまだ小さかったからな、なんにもわかん

かっただろうけど、

野島 え、じゃあ、お父さんてまだ刑務所にいるんですか？

進士 とっくに出てるよ。

野島 ……みなさん、会ってるんですか。

進士 会うかよ、

大西 こっちも会いたくないけど、向こうも会わないって、

山崎 出てからも家具つくってたんだって、

野島 いまでも？

山崎 たぶん、

野島 ……元気なんだ。

荻野 ……いや、そうじゃなくて、

進士 え？

荻野 俺は会ってんだ。

大西 ええ？

山崎 そうなの？

荻野 ずっと会ってた。保護司のひととも連絡取りあって、ちよくちよく会ってた。

進士 会ってなにやってたの？

荻野 様子見てたんだ。

大西 なんの様子見るの、

荻野 なんのって……具合とか、生活とか……

進士 なんて。

荻野 親だろ。

進士 親殺した親だろ。

荻野 それでも親だろ。

大西 ちよつと人好すぎない？

荻野 そうか？

山崎 一言言ってくればよかったのに、会ってるなら、会ってるでさ、

荻野 悪かった、

山崎 許してるわけじゃないよね？

荻野 ……そういうわけじゃない。

進士 (宗田と野島に) 苦労したからさ、親父のせいで、

宗田・野島 ……。

進士 俺たち小学生だったからさ、たいへんなわけだよ、学校とか、隣近所とか。よかったのは殺してくれたのが母親だったってことくらいだよ。

荻野 なに言ってたんだ、おまえ。

進士 もし殺してたのが赤の他人だったら、もつと苦労してただろ、俺ら。ちがう？

荻野 ……。

進士 幸せだよ。記憶がなくて。

野島 ……なんか、実感湧かないんですけど。

大西 そうよね。

野島 ……（宗田に）やっぱり気持ち悪くないですか？

宗田 え、いや、ぼくは…

進士 帰っていいよ。無理しなくて、

荻野 ちよつと待てよ、

進士 済んだだろう、話、

荻野 まだだ、

進士 永遠子は永遠子で話せばいいよ、

荻野 そうじゃない、親父のことだ。それが本題だ。

進士 なに？

荻野 脳溢血で倒れてな。

一同 ……。

荻野 入院してる。身体は動かないし、自分の意思は伝えられない状態だ。

一同 ……。

荻野 どうするか迫られてる。延命するか、しないか。医者はもう九割無理だと言ってる。

一同 ……。

荻野 リビング・ウイルスはいつさいない。親父に親類縁者はまったくない。俺の一存じゃ決められない。みんなと話し合っただけで決めた。だから集まってもらった。だから急いだんだ。

山崎 リビング…？

荻野 リビング・ウイルス。生前の意思ってことだ。遺言状とか、

進士 え、じゃあ、なに、俺ら次第ってこと？

荻野 そういうことだ。

大西 ……もし延命するとして、医療費とかはどうなるの？

荻野 いまのところ親父の蓄えでなんとかなってる。延命を決めたら、家族が負担することになる。

大西 え、つまりわたしたちってこと？

進士 そんなの議論するまでもないじゃんか、親父の面倒見る義理なんてねえだろ、

大西 それはちよつと考えちゃうなあ、

山崎 都合のいいときだけ家族って言われてもね、

野島 え、負担って、わたしも？

荻野 誰かが負って、誰かが負わなかったら、しこりが残るんだ。

ぜつたいに残る。だから負うんだったら全員で負いたい。親父のことをみんなで背負いたい。逆に、捨てるんだったら、全員で捨てたい。

一同 ……。

大西 ……捨てようよ。

一同 ……。

大西 だってわたしたち捨てられたわけじゃない、あの人のおかげで。今度はこつちが捨てる番なんじゃないの？

山崎 親父があんなことやってくれなけりゃ、もつとまともな人生送ってたかもしれないね。

大西 それに医療費なんて出す余裕ないよ。ただでさえカツカツなのに。

進士 話し合うまでもないんじゃないの。

荻野 俺たちと下の三人じゃ知ってることが違いすぎる。

進士 結果論だけで充分なんじゃないのかねえ。

荻野 おまえらだって、どこまでわかってんだ。理解できてんのか、親父とおふくろのこと。

進士 だからさ、理解とかどうでもいいと思うわけ。殺したわけじ

やん、おふくろを。迷惑したわけじゃん、俺らは。それがすべ
てだよ。それ以上でも以下でもねえよ。

大西 なんかもう、いいかげん解放されたいよ。いいんじゃない？
バチ当たらないと思うけど。

野島 わたしもそんなこと言われても困るって感じですね……はっ
きり言って知らないですよ、そんなの。(宗田に)ちがいます？

宗田 ……。

荻野 ようするに見殺しにするってことか、

山崎 そういう言い方、よくないんじゃないかな、

荻野 だって、そうだろ？

そこへひとりの女が入ってくる。

御厨 永遠子である。

荻野 (気づいて) ……遅かったな。

御厨 ……。

荻野 すわれよ。

御厨、任意の場所に腰を下ろす。

荻野 永遠子だ。(御厨に) 次男の康輔、長女の理佐、三男の和紀、
四男の孝弘、末っ子のみずき。

それぞれ、会釈。

大西 大きくなったね。

御厨 ……。

山崎 おぼえてる？

御厨 おぼえてないです。

山崎 ……そう。

荻野 いま、先にちよつと話してたんだ。おまえを待ってるあいだにな、

御厨 ……。

荻野 あらためて話したいことがあるって言ったけど、それはつまり……

御厨 (さえぎって) 父が母を殺した話なら知ってますけど。

荻野 ……そうなのか？

御厨 向こうの親からさんざん聞かされましたから。

大西 どういうこと？

御厨 おまえは人殺しの娘だって、

山崎 ひどい親だね。

進士 正直でいいんじゃないの、むしろ。

大西 子供に言うことじゃないでしょ。

御厨 わたしはよかったと思ってますけど。口当たりのいいこと言われるよりは。

進士 同感だね。

御厨 (失笑)

進士 なに？

御厨 ……べつに。

荻野 ……親父が脳溢血で倒れた。延命するかどうか、みんなで話し合いたい。

進士 俺たちはそんな必要ない派。

荻野 でも、もつと慎重に考えるべきなんじゃないかっていう話をしようとしたところだ。

御厨 そうですか。

進士 多数決しようぜ。

大西 やめない？ それはいくらなんでも。

進士 でもそういうことだろ？

大西 そういう問題じゃないわけじゃない、

進士 そういう問題だろうよ、

荻野 なんで親父がおふくろを殺したと思う。

進士 理由なんかねえだろ、

大西 年中殴ってたじゃない、

山崎 そうだっけ？

大西 殴ってた、

荻野 自分が殴られた記憶あるか？ 親父に殴られた記憶。

大西 ……おぼえてないけど。

山崎 ぼくも親父に殴られた記憶はないなあ、

進士 忘れてるだけだよ、きつと殴られてんだよ、

荻野 俺はない。

進士 一度や二度はあるんじゃないの。

荻野 ない。あつたらおぼえてるはずだ。

進士 てか、だったらなんなの？

荻野 女房殴るような親父が、どうして子供殴らねんだ？

大西 どうしてって…：そういう人いない？ 奥さんには手を出す

けど、子供には手をあげない人。

荻野 理由もなく女房殺すような男が子供はほつとくのか？

大西 そういう人だったんじゃないの？

荻野 つまりなんにも知らないんだろ？ おまえら、親父のこと、

なんにも知らないじゃないか。

進士 知る必要が感じられないんだけど。

荻野 親父とここ何年もつきあってきた。あの人はすくなくとも話

の通じる人だし、ものの道理のわからない人じゃない。

進士 人殺したあとでそうなってもねえ、

荻野 おまえら、逆におふくろのことはおぼえてるのか？

一同、無言。

荻野 記憶にあるか？ どんな人だったか。なにしてもらったか。

一同 ……。

荻野 俺の記憶はこうだ。ことあるごとに殴られ、ぶたれ、怒鳴られ、人前だろうとなんだろうと関係なく、いつも責められてた。

おまえたちもだ。

一同 ……。

荻野 あれはひどい母親だったよ。

進士 ……おぼえてねえな。

大西 お兄ちゃん、記憶が塗り替えられてない？ オーバーに。

荻野 そんなことはない。

山崎 ぼく、母さんの記憶ってあんまないんだけどさ、子供のころって、なんかいやーな感じだけ残ってたんだよね。たのしいこともあったのかもしれないけどさ、そんな感じしかおぼえてないんだよ、なんか変な感じだなーって思ってたんだけどさ、あのさ…：ぼく、お尻のところに赤いひきつれがあるんだよ、おぼえてる？

荻野 ああ、おぼえてるよ。

山崎 あれってなんなのかな、ぜんぜん記憶にないんだけど…：

荻野 ……おふくろがおまえにアイロン当てたんだ。

山崎 ……なんで？ なにやったの、ぼく？

荻野 泣いたんだ。うるさかったんだ。

山崎 それだけ？

荻野 それだけだ。

山崎 虐待だよね、それ。

荻野 そうだ。

山崎 ……なんでおぼえてないんだろ。

進士 兄貴が言うほどひどくねえからだろ、

荻野 俺の背中にはみみず腫れがある、おぼえてるか？

進士 知らねえよ、

荻野 おふくろにやられた。棒切れで叩かれたんだ。

進士 なんて？

荻野 わからない、

進士 なんだよそれ、

荻野 わけもなくやられた、

進士 やるかよ、わけもなく、

荻野 やられたんだ、

進士 親父になに吹き込まれたか知らないけどさ、

荻野 (さえぎり) 事実だ。おぼえてんだよ。おまえらよりは物心

ついてたからな。

一同 ……。

荻野 ……親父は俺たちを守ったんだ。

進士 ……ようするに兄貴は親父の面倒みろって言いたいの？

荻野 ああ。

大西 もしそれが本当だったらね。

荻野 まだ「もし」とか言ってるのか、

山崎 しょうがないよ、むかしのことなんだから。

荻野 事実だろ、

進士 俺たち守ったっていうけどさ、親父に殴られたから、その鬱

憤をこつちに向けてたかもしれないわけじゃん？ おふくろも。

荻野 親父はそんな人間じゃない、

進士 でもヨイヨイだから確かめようがねえよな？

野島 (さえぎり) あの。

一同 (注視)

野島 そういう話だったら、わたしたち黙って聞いているしかないんですけど、それでもいいですか？

荻野 ああ、ごめん、聞いててくれれば良いよ、

野島 わたし、記憶なんてないし、痣もなんにもないし、

大西 聞いててくれればいいから、

野島 (宗田と御厨に) ありますか？ 記憶とか、傷とか、

宗田 あ、ぼくはないですねえ、

御厨 わたしもないです。

野島 白紙委任状的な感じでもいいんですけど、べつに、

荻野 いてほしいんだ。いてくれるだけでいいから。

野島 べつにいるのはかまわないんだけど、

荻野 ひよつとしたらさ、こんなのほんとする必要ないのかもしれないけどさ、やんなきゃダメだと思うんだ。俺、長男だからさ、いつかはこういうことしなきゃダメだと思ってたんだ。俺のわがままかもしれないけど、つきあってくれよ。たのむよ。

野島 ……だからべつにいいんですけど。

荻野 なにがあらうと人を殺していいわけがない。親父は後悔してるし、罪も償った。社会的にも制裁は受けた。もう充分じゃないか。これは裁判じゃない。俺たちはあの人の子供だ。子供にしかできない、子供だからこそできる判断はあるはずだ。

御厨 ようするにお父さんとお母さんがどういう人だったかを話し合ってるわけですよ？

荻野 そうだよ。

御厨 わたしの話、していいですか？

荻野 いいよ、

大西 なに？

御厨　うちの親、人の仲介でわたしを養女にしたんですね、だからなんにも事情を知らずに引き取ったんですよ、

荻野　らしいな、

野島　え、そうなんですか？

荻野　みんなそれぞれだ、

大西　お願いしたの、違う人だから。

御厨　なにも聞かないでくれ、過去は関係なくこの子を育ててくれ
って、

野島　（宗田に）そちらも？

宗田　うちはあんまりいろいろ話さないんで、

野島　ご両親、なんにも知らないってこと？

宗田　それもよくわかんないっていうか、

御厨　それで調べたらしいんですよ、興信所使って、

一同　……。

御厨　やっぱり人殺しの娘はいやだったみたいですね、なんか冷たい親だなーって思ってたけど、小学生の時に教えられました。

大西　……親御さん、サラリーマンだって聞いてたけど。

御厨　はい、会社員です。母は専業主婦です。ふつうの家庭です。

山崎　ふつうの親は自分の娘が人殺しの娘だなんて言わないよ、

御厨　そうですか？

野島　言わないと……思いますけど。

御厨　虐待とかじゃなくて、関心がないだけだと思いますよ、わたしの気持ちに。

大西　それを虐待って言うのよ、

御厨　それで、うちの両親が調べさせた資料に、わたしだけ母親が
ちがうって書いてあったらしいんですね。

一同　……。

進士　……え？

御厨 ちがうらしいんですよ、みなさんとは、母親が。
大西 ……どういうこと？
御厨 お父さんがよその人と作った子供らしいですよ、わたし。
荻野 そんな話は初耳だ。
御厨 うちの親、なにも言っただけでなかったですか？
荻野 言わなかった。
御厨 関心ないんですよ、ようするに。
進士 え、じゃあ、どういうこと？
御厨 女がいたってことじゃないですか。
山崎 愛人てこと？
御厨 そういうことですね。
進士 別の女が産んだって話だよな？
御厨 はい。
進士 (荻野に) そんな記憶あるか？
荻野 ない。
大西 わたしもない。
山崎 それはちよつとおかしいんじゃないかな、
荻野 その報告、まちがってるんじゃないのか、
進士 お腹大きかった記憶あるけど、
大西 入院もしてたし、
荻野 おまえがはじめてうちに来たときの記憶もある、
御厨 流産したそうです。それでその三ヶ月あとにわたしを引き取
つたらしいんですけど。
荻野 (苦笑し) そんなわけ(ないだろう) ……
大西 そんなはずないって、
荻野 たしかにおぼえてるんだ、おまえが来た日を、
大西 妹来たって、みんなで騒いで、
山崎 ああ、なんかそれ記憶にある、

宗田 ……ぼくも。

山崎 おぼえてんの？

宗田 それはなんとなく、はい、

大西 それで妹いるって知ってたんだ、

宗田 はい、

山崎 でも二歳だよね？

宗田 そうですね、たぶん、はい、

山崎 よくおぼえてるよね、

宗田 自分でもよくわかんないんですけど、そこだけはおぼえちゃつてたみたいな、はい、

御厨 もともとよそに子供が出来たのは、こちらのお母さんも知つてたらしいんですよ。それで引き取るって言つてたらしいんですよ。ところがわたしの本当の母親がいやだつて拒否してたらしいんですよ。それですごい揉めてたらしいんですよ。

一同 ……。

御厨 それがタイミングよく流産したので、自分が産んだことにしようとしたらしいんですけど、

荻野 馬鹿げてる、

大西 現実的じゃないんじゃないかな、

御厨 ほとんど強引にわたしを引き離して、

荻野 よそに女作るほどの甲斐性がある親父じゃないよ、

大西 貧乏だったし、

御厨 貧乏だつて、甲斐性なくたつて、女いる男なんていくらでもいるわけじゃないですか。よくあることだと思ふんですけど。

荻野 信じられない。

御厨 信じる信じないの話じゃないんじゃないですか。

荻野 信じられない。

御厨 事実なのに？

荻野 まだわからない、

御厨 わかりたくないだけなんじゃないですか。

荻野 そういうことじゃ（ない）……。

御厨 （さえぎり）報告書は持ってきました。お見せしましょうか？

荻野 ……。

御厨 わたしはみなさんとは母親がちがいます。

間。

荻野 ……どういひとなんだ。

御厨 中学の同級生らしいですよ。

進士 地元で出来ちゃったってこと？

御厨 当時つきあってたらしくて、

山崎 なんかよくある感じだよね、

御厨 くわしくはわからないんですけど、

大西 ……いつからだろうね。

山崎 昔からだったら、母さんが荒れた原因はそれだよね。

荻野 どうしてるんだ？

御厨 八年前に亡くなったそうです。最後までこちらのお母さんを

「いい気味だ」って言ってたらしいですよ。

一同 ……。

野島 ……あの。

一同 （注視）

野島 そちら（御厨）が母親がちがうとして、わたし生まれてるわ

けじゃないですか？

一同 ……。

野島 それってどういうことなんですかね？

進士 どういうことって？

野島 ダンナがよそに産ませた子を引き取るって、夫婦としてはけ
っこう亀裂だと思っうんですけど、それでもうひとり子供が出来
るってちよつとどうなのかと思つて。

進士 やり直そうとしたんだろ。

野島 (苦笑し) やり直せないでしょ。

進士 よくあることだよ、

野島 でもけつきよく殺してるわけじゃないですか。

一同 ……。

野島 ……なんなんだろ、わたし。

御厨 でもちゃんとこちらのご両親の子供みたいですよ。

野島 これ以上、親増えても困りますよ、

進士 どうする？ それでも親父の面倒みんの？

荻野 ……。

進士 親父が外に女作つてき、そのうえでおふくろが荒れてたんな
ら、親父の責任なわけじゃん。そんな父親、面倒見る必要あ
のかな？

荻野 おまえ、やけにおふくろの肩もつな？

進士 おふくろの肩もつていうか、親父の肩もてねえだろ。

山崎 どっちの肩ももてないよ。なんかいろいろ思い出してきた：

…子供のころのこと…：すげえうんざりなんだけど。

大西 ……でもね…：でも…：浮気されたときつて、鬱憤が子供に
向かうのつて、かならずしも一般的じゃないっていうか、

進士 一般的なきょうだいじゃねえだろ、

大西 でも、わたしも外に女作られたけど、そんな気分にはならな
かったな。

荻野 ……いつの話だ。

大西 もうずっと。いつつて…：四年くらいかな。

進士 子供もいんの？

大西 さすがにそれは……それこそそんな甲斐性ないって。

荻野 揉めてんのか。

大西 最近はそんなでもない。

進士 別れたら？

大西 別れないよ、そんな程度で。

野島 そんな程度？

大西 たいしたことないよ。よくあることだって。ほんとに。

野島 わたし、そういうのゆるせなくて、

大西 それなりに経験積んだらわかるかもよ。騒いだら負けみたい
なところあるから。

野島 そんな……。

大西 まあ向こうの女次第かなあ、

荻野 放つてあるのか。

大西 うん。知り合つて十年、結婚して八年なんだけどき、ここま
で来るといつしよにいるのも恋愛感情とはちよつとちがつてく
るわけよ、わかる？

一同、あいまいな感じ。

大西 そうなつてくると相手が浮気したつて、生活はあるし、仕事
もあるし、うちは工務店だからわたしの役割も大きいし、そ
うそう騒いでもいられないわけよ。

荻野 わかるよ、

大西 父さんが職人だったわけだからさ、母さんもそんな感じだつ
たんじやないかなつて思つてたんだけど、

山崎 人によるんじゃない？

大西 だとしたらどういう人だったのよ。

荻野 ひどい人だった。

進士 よそに子供作る親父はもっとひどいけどな。

荻野 わけもなく乱暴するような人だ、

進士 だからって殺しちやだめだろう、

荻野 いいとは言っていない、

大西 子供いたらちがうのかな。

荻野 どうだろうな、

大西 実感変わるのかな。

進士 どうだか。

野島 ……子供いる方、いないんですか？

一同、無言。

荻野 ……俺な、ガキの頃、親父に言われたんだ。おまえ（進士）

がおふくろに折檻されて、ひどい目に遭わされて、なにも出来なくて泣いてたときに、親父は「なんとかするから」って言ったんだ。鮮明におぼえてんだ。だから……親父がおふくろをやつたとき、ああ、なんとかしたんだなって思ったんだ。

進士 だからなんだよ。はつきり言うけどさ、それ、兄貴の嘘だつていう可能性もあるわけじゃん？

荻野 なんだと？

進士 記憶だけの話だろ？ 証拠も何もないわけじゃん。

荻野 証拠が必要か？

進士 こういう話だったら必要だろうよ、

荻野 嘘つく理由がどこにある？

進士 ……理由っていうか、なんでいままで黙ってたんだよ。それが不思議なんだけど。

荻野 ……。

山崎 ぼくも聞きたいな、それ。なんかちよつとバカにされたみた

いな気もするし。

荻野 そうじゃない、

山崎 なに、言ったら傷つくとも思ってた？ ぼく、そこまでヤ
ワじゃないんだけど。

進士 けつきよく他人なんだよ。血がつながってるだけでさ、それ
だけのことでさ、赤の他人なんだよ。きょうだいなんて言った
つてさ、きょうだいじゃないんだよ。こいつ（野島）の言う通
りだよ、

荻野 ちがう。

進士 俺さ、今日ここ来んのもさ、気が進まなかったわけ。だって
まともに話なんか出来るわけじゃないじゃん。こいつらだって迷惑
だろうしさ、そもそも俺、最初に兄貴が俺んとこ来たときもさ、
うれしくなかつたんだよ。会ってどうすんだって思ってたさ。じ
つさい会ったってなにがどうなるわけじゃないじゃん。おふく
ろが生き返るわけでもないわけじゃん。最近どうしてるとか、
与太話するしかないわけじゃん。意味ないと思うわけ。もうみ
んなさ、他人として生きてんだよ。そこ納得してよ。他人なん
だからそつとしようよ。わざわざ過去ほじくりかえしてイヤ
な思いさせることないよ。親父の面倒とかさ、もうどうでもい
いじゃん。捨てようよ。いらねえよ。なんとかするつてさ、こ
んなんなつちやってるんだから、もうダメじゃん。なに親父を
ヒーローにしたがってたんだよ。虐待から守るつて、殺しちゃつ
たらどうにもなんないじゃん。ありがた迷惑ってたんだよ、そう
いうのは。

荻野 逃げるなよ。

進士 あ？

荻野 逃げるな。おまえはいつだってそうだ。理屈をつけては逃げ
出そうとする。

進士 意味わかんねえんだけど。

荻野 現実を見る、

進士 現実見てねえのは兄貴だろ？

荻野 おまえだ、

進士 いいかげん気づけよ、こんなことしても意味ねえって。

荻野 血はつながってんだ。

進士 関係ねえよ、親父とおふくろがセックスしただけの話じゃね

えかよ、

荻野 ……そういう人間だから黙ってたんだ、

進士 あ？

荻野 おまえは世を拗ねた弱い人間だ。だから黙ってたんだ。

進士 人を勝手に判断すんなよ、

荻野 おまえ（山崎）もだ。どこか運命に負けてる。

山崎 そんなことないよ、

荻野 おまえ（大西）だって、中身はもろい。

大西 そうかな、

荻野 先延ばしにしたのは悪かった。けど待ってたんだ、おまえらが成長するのを。自然とこういうことが言えるときがくればいいと思うってた。だがそうなる前に親父が倒れた。

進士 なにが成長だよ、くだらねえ、

大西 もういい歳だよ、

山崎 兄さん、やっぱりぼくたちのことバカにしすぎじゃないの？

荻野 強がるな！

一同 ……。

荻野 ……なんでそんなに強がるんだ。おまえらが強がれば強がるほど、俺にはおまえらの弱さが見える。おまえらの中身は別れた日からなにも変わっちゃいない。ガキのままだ。

一同 ……。

荻野 素直になれ。弱いなら弱いでいいんだ。無理すんな。おまえたちは弱い。認める。話はそれからだ。

進士 ……ああ。弱ええよ。ろくな人間じゃねえよ。卑屈すぎてついていけないって女房にも逃げられたんだよ。だからなんだよ。こんな人間にしたのはいったい誰だよ。

山崎 たしかにうまくいってないけどさ、こんな特殊な環境なわけだしさ、ぼくたちが弱いだけのせいにしてきかれても困るっていうか、大西 みんなそれなりに苦労してるんだからさ、そこまで言うのは酷なんじゃないの？

荻野 おまえらがうまくいってないのはおまえらのその人格のせいだ。悪いことが起きたらなんでも人のせい、境遇のせい、そうじゃない、おまえらがいじけた人間だからだ、だから人が離れてくんだ。運が逃げてくんだ。

進士 あんた、そんなエラそうなことと言える立場か？

荻野 ちがう。けど言わなきゃならない。おまえらの兄貴だからな。

進士 エラそうなこと言いたいから兄貴ぶってんのか？

荻野 ちがう、
進士 そうだろ、あんたなんかただの警備員じゃねえか、住み込みの。社会的にはえらくもなんともない、アリみたい生きてる人間じゃねえか、威張れんのは俺たちだけでもんな、

荻野 ちがう、

進士 だからいい歳して結婚も出来なきゃ子供もいねえんだろ？
八つ当たりすんなよ、俺たちに。

荻野 ちがう、

進士 あんたがいなけりゃ、昔のことなんか思い出さずに済んだんだよ！

荻野 ……思い出したか？

進士 あ？

荻野 おふくろのこと。

進士 ……。

荻野 親父が「なんとかする」って言ったとき、おまえもいた。思
い出したか？

進士 ……。

荻野 俺は親父をかばってるつもりはない。おまえもおふくろをか
ばう必要はないんだぞ。

進士 もういいかげんやめてくんねえかな！

荻野 袖をまくってみろ。

進士 ……。

荻野 まくってみろ。いいからまくってみろ。

進士 ……。

荻野 どうしてできない。このクソ暑いのに、どうして腕を出さな
い。

進士 ……。

荻野 見せてみる。なぜ隠す。見せたくないのか？ それとも見た
くない（のか？）……

進士 （さえぎり）わかってんだよ、わかってんだよ、ひどい母親
だったなんてことはさ！

一同 ……。

進士 ……いい思い出もあんだよ。

荻野 わかっている。

進士 かばってなんかねえよ。

荻野 ああ。

進士 ……もらわれた先でさ、悪く言われたんだよ、おふくろのこ
とを。子供って不思議なもんでさ、どんなにひどい親でも他人
に悪く言われると腹が立つもんなんだよ。それだけだよ。

荻野 ……。

進士 あんな母親でもいいところもあったんだよ。

荻野 おんなじように親父のことも考えられねえか？

進士 ……。

荻野 おまえらも、親父やおふくろのこと、もっと冷静になって考えられないか？

一同 ……。

大西 お兄ちゃん（荻野）さ、わたしがもろいつてのは、どこらへんがそうだと思ってるの？

荻野 亭主が浮気して平然としているようなところだ。

大西 それってむしろ強いってことなんじゃないの？

荻野 平気なわけないだろ。傷ついて当然だろ。なのにあたりまえみたいな顔してる。

大西 泣いてわめけば満足？

荻野 そういうときがあってもいい。

大西 泣いてわめいて亭主に殺されたら満足？

荻野 ……。

大西 忘れようとしたけどさ、忘れられるわけじゃない。おぼえてるよ。思い出さないようにしてたんだよ。いやでも思い出したけどさ。

荻野 ……。

大西 わたしさ、猫飼ってたのね、野良でさ、歩いてるとついてきてさ、すんごい可愛かったのよ、うちの人も動物好きだからさ、ふたりで面倒みてさ、とにかく可愛くて可愛くて仕方なかったのよ、でもさ、だんだんいららするようになってきてさ、なんかムカついてくんよ、顔見るといじめてやりたくなんのよ、なんでかわかんないんだけどさ、甘えてくれれば甘えてくるほどぶつたり蹴ったりしちゃうのね、エサやらないで無視するとかさ、虫眼鏡で焦がすとかさ、ひどいことさんざんしたのよ、

でも甘えてくるわけ、どんなにひどいことしても甘えてくるわけ、それでもう限界でき、壁に投げつけて殺しちゃったんだ、もう押さえらんなくてさ、気がついたらやっちゃっててさ、ほんと限界でき、でも、それでも、最後まで甘えてんの、甘えた顔して、甘えた声で死んでつたのね、なんなんだろうね、あれ、わたしのながいいんだろうね、わかなくてさ、わかんないんだけど、一週間泣いたわ、それから一週間、とにかく泣いて泣いて泣いた。

一同 ……。

大西 母さんも泣いてたよ。

一同 ……。

大西 それからいろいろ本とか読んでさ、そういうのって、自分が愛されたことがないから、愛されることが信じられなくてやっちゃうんだって、相手の愛情を確かめようとしてやっちゃうんだって、なんかちよつと納得したよ、うちの親は大事にしてくれたけどさ、愛されてるのはちよつとちがう感じしたしき、ほんとの親はこんなだしき、うちの人はどうだかよくわかんないけどさ、でも外に女作ってたってわかったら落ち着くんだよ、いらいらしないんだよ、これでふつうなんだって思っちゃうんだよね。

荻野 ……愛されてない状態がふつうのわけあるか。

大西 わたし女だしき、母さんのことはよく考えるよ。浮気された鬱憤を子供に向かって晴らすなんて、そんなことないと思う。

進士 ……じゃあ、あれはなんだよ。

大西 わたしたちが求めたからでしょ。

一同 ……。

山崎 ……それでこんなことされても……じゃあ、ぼくたちどうすればよかったの。

大西 さあ……もっと憎んだり、歯向かったりすればよかったんじゃないの。

荻野 子供には無理だ、

大西 だからって殺す？ 酒飲んだり、よそに女作ったりするんじゃないの？ もっと母さんに向き合ってくればよかつたんじゃないの？

野島 でも、猫にそこまでひどい虐待をしてる人がいたら、わたしだつたら殺すかも。

一同 ……。

野島 だつて好きだもん、猫。

一同 ……。

大西 あの人があの人でもしわたしを受け入れてくれたり、許してくれたりとかしてたら、かえって揉めてたような気もするよ。父さんと母さんもいろいろ努力しちゃったんじゃないの。それが仇になっちゃったんじゃないの。

進士 ……もう多数決だろ。

大西 ……だからやめようよ、それは。

進士 ほかにどう決めんだよ。議論して解決する話じゃねえだろ。あいまいな記憶だけで正しいも正しくないもねえよ。良いも悪いもねえよ。イヤかイヤじゃねえかだよ。

一同 ……。

進士 いまさらすぎんだよ。ここまで来ちゃってんだよ。年取りすぎてんだよ。親父やおふくろがどんな人間だろうが、なんにも変わりやしねえんだよ。

一同 ……。

御厨 とりあえずそれぞれがどうしたいか言ってみたらいいんじゃないですか、

山崎 そうだね、それがいいよ、

荻野 俺は親父の面倒を見る。理由はさんざん話した通りだ。

進士 俺は見ない。

大西 見ない。

山崎 ぼくは無理。

宗田 ぼくは、えーと、ちよつと厳しい感じなんですけど、はい、

御厨 見ます。

野島 ……見ません。

進士 ……五対二かよ。結論出たじゃん。

荻野 本当にそれでいいのか？

一同 ……。

進士 親父なりに考えあつたのもわかるよ。認めるよ。でも、だからつて、そう簡単に納得できるような話じゃねえよ。

大西 後先考えずにああいうことしたんだから、自分の責任は自分でとつてほしい。

山崎 兄さんはさ、ぼくたちがいじめてんのは人格のせいだとか言うけどさ、それつてね、ニワトリが先かタマゴが先かみたいな話だと思ふんだよね、たしかにいじめてるかもしれないよ、でもさ、やつぱりそもそもああいうことがなけりやいじめないわけでき、ていうかさ、親は子供をいじめて人間にさせちやいけなんじゃないの。やつぱり、ぼくはやつぱり、親父許せないし、どんな事情があつても許しちやいけなないんだと思ふんだよね。

宗田 ……。

一同、宗田の言葉を待っているのを当人察して、

宗田 え、あ、ぼくはあの、昔のことはよくわからないんで、それで、はい、

一同 ……。

宗田 ちよつと収入的にもアレですし、はい、

御厨 わたしだけ母親がちがうからかもしれないね。そちらのお

母さんに同情できません。

進士 殺されていい気味だったか？

御厨 (苦笑)

進士 なんだよ。

御厨 ほんとに変わらないなって思つて。

進士 ……。

野島 ……無理でしょ。判断なんかできるわけないし。わたし、血のつながりなんてどうでもいいと思います。遠い親戚よりも近くの他人つて言うじゃないですか。あれ、ほんとですよ。皆さん見てもなんとも思いませんもん。うちの両親の方が親ですから。本当の親ですから。親は何人もいませんよ。野島の両親だけがわたしの肉親です。もうしわけありませんけど、そちらのお父さんの面倒は見れません。ごめんなさい。

荻野 ……本当にいいんだな？

一同、無言。

荻野 ……わかった。

大西 ……納得した？

荻野 ……ああ。

進士 ……正解だよ。

山崎 いいんじゃないかな、それで。

荻野 このあとどうする？

進士 帰るよ。メシなんか食う気になれねえだろ、みんな。

大西 わたしもうちのことあるから。

山崎 ぼくも今日は帰るよ。

進士 (立ち上がり) ……もうあんまり会わない方がいいんじゃないよ。
い？ 無理に会うのは最後にした方がいいよ。

荻野 ……そのつもりだ。

進士 ひねくれたことばかり言ってるみたいだけど、そつとし
といた方がいいと思ってるのはほんとなんだよ。つうか、俺が
そつとしていてほしいんだよ。たのむよ。

荻野 ……わかった。

進士 じゃあ、

大西 じゃあね、

山崎 またいつか。

苦笑して去って行く進士。

立ち上がる大西と山崎。

大西 ああ言ってるけど、なにかあつたらまた来るよ。

荻野 そうだな。

山崎 ぼくもなにかあつたらすぐ来るから。でも、もう用事もあん
まりないか。

荻野 (苦笑)

大西 疲れたね。

荻野 ああ。

大西 じゃあね。

荻野 ……おまえ、

大西 ん？

荻野 ……いや。

大西 なに、

荻野 なんでもねえよ。

大西 行くね。

荻野 ああ。

山崎 兄さんも頑張ってるね。

荻野 ああ。

去って行く大西と山崎。

野島 ……帰ります。

荻野 ああ。

野島 (立ち上がり) わたし、やっぱりもうかかわりあいになりたくないです。

荻野 そうか。

野島 わたし、ネガティブな人、ダメなんです。気力吸い取られるっていうか、元氣なくなっちゃうんです。みなさん見てると、なんか不幸がうつりそうで……。

荻野 (寂しく笑って) みんな生きるのに必死なだけだよ。

野島 ……ごめんさい、とにかくダメです。でも……今日ここに来たのは、お兄さんが熱心だったからです。ちよつとだけ信用できそうな気がしたからです。そうじゃなかったら、たぶん来てません。呼んでくれてありがとうございます。

荻野 ……(会釈)。

野島 お役に立てなくてすいません……さようなら。

会釈して去って行く野島。

荻野 おまえもか？

宗田 え？

荻野 おまえも、もう関わり合いになりたくないか？

宗田 いえ、ぼくはどつちでもいいっていうか、

荻野 呼んだら来るか？

宗田 ええ、あの、タイミング的に問題なければ、はい、

荻野 タイミング的？

宗田 バイトとかとかち合ってなければ、はい、

荻野 そうか……じゃあ、まあ、なにかあつたら、

宗田 はい……それじゃ。

立ち上がり、イヤフォンをして音楽を聴きながら去って
行く宗田。

荻野 (ふいに) みんな甘えてんだ。

御厨 ……。

荻野 親父にも、おふくろにも。みんな甘えてんだ。子供なんだ。

どうしようもなくあの両親の子供なんだ。

御厨 ……捨てないんでしょ？

荻野 ……。

御厨 面倒見る気ですよね、お父さんの。

荻野 ……。

御厨 お手伝いします。

荻野 いい。

御厨 どうしてですか？

荻野 逆に聞きたい。どうして親父の面倒を見たがる？

御厨 ……。

荻野 ふつうに考えれば、あいつらの反応の方がまともだ。なにを
考えてる？

御厨 ……話がしたいんです。ほとんどダメなのかもしれないけど、
荻野 九割ダメだ、

御厨 でも可能性はあるわけですよね？ だったら賭けてみたいんです。どうしてわたしをつくったのか、直接聞いてみたいんです。

荻野 ……利口な人じゃないんだ、親父もおふくろも。殴り合って、酒飲んで、子供も殴って、外に子供つくって、それでも交わって子供をつくって、あげくに殺しあつた。ダメな人なんだ。どうしようもない人たちなんだ。

御厨 ……。

荻野 おまえができたことに深い意味なんかないよ。そんなこと知ろうとするな。

御厨 ……。

荻野 俺が親父を捨てられないのはな、うれしかったからだ。「なんとかする」って言ったとき、あんなどうしようもない親父の中にも一本通ったなにかがあるんだってわかった。それがうれしかったんだ。さんざん苦労したよ。イヤな思いも数えきれないほどした。でもあの言葉が救ってくれた。じゃなきゃここまで生きて来れなかった。

御厨 死のうとしたんですか。

荻野 いや。でも考えない日はなかった。

御厨 わたしものです。

荻野 結婚しろ、家族をつくれって世間はうるさいんだ。みんなそれがしあわせだと思ってる。あたりまえだと思ってる。そうじゃないのを俺は知ってる。

御厨 ……。

荻野 (急に激して) 誰がつくるか、家族なんて！

御厨 ……。

荻野 家族がないから不幸なんじゃない、あるから不幸なんだ、ひとりになってやっと幸せになれたんだ、悲しいよ、俺は、俺は

それがたまらなく悲しい。

御厨 ……。

荻野 あいつらみんな子供つくってねえじゃねえか。怖いんだ。親になるのが怖いんだ。だから俺たちは子供なんだ。たぶん、一生、成長できずに終わるんだ。あの両親の子供として、生涯親にはなれずに終わるんだ。

御厨 でも、今日みたいなのは、子供にはできないんじゃないですか。

荻野 ……子供だからできたんだ。大人だったら、たぶんこんなことはしない。なにもしないで済ませるんじゃないか。

御厨 ……。

荻野 親父の面倒みるのは、俺のわがままだ。おまえがつきあう必要はない。おまえはおまえの人生を生きろ。今日できようだいは解散だ。それが見届けたかったんだ、あとは俺が引き受ける。

御厨 (ふいに) 妊娠してるの。

荻野 ……。

御厨 まだ墮ろせる。産もうかどうか迷ってる。

御厨、泣きはせず、ただ涙があふれる。

御厨 わたし、この子を幸せにする自信ない。この子が幸せになる世の中だとも思わない。でも、墮ろそうと思うと、なんだか身を引き裂かれるような気持ちになるの。ものすごく悲しい気持ちになるの。

荻野 ……。

御厨 どうすればいい？ さっき言ったこと、この子に言える？
生まれてくる意味なんてない、家族がない方が幸せだって、この子に言える？

荻野 ……。

御厨 わたし、お父さんに会いたい。話ができないなら顔だけでも見たい。触ってみたい。なにかが通じる気がする。なにかがわかる気がするの。

荻野 ……。

御厨 会わせて。

荻野 ……。

御厨 お願い。

荻野 ……。

ゆつくりと長く静かな暗転。

(了)